

今年度も、横山利弘先生を講師として、年間6回の勉強会を開催し、毎回1本の資料を通して道徳の授業づくりに向けた検討会を実施した。4～6人のグループワークで意見交換を行い、その後横山先生から指導・助言を頂いた。

主体的で対話的な深い学びは、指導方法や指導技術によってできるものではなく、その資料を読み込み、その内容とねらいとする道徳的価値についての授業者の深い見識がなければならない。

そのことを大切に資料の読み方、ねらいとする道徳的価値の理解を中心とした勉強会を開催した。さらに、教科化が迫る中、道徳の授業づくりの基本やその考え方について以下のように学んだ。

## ■ 道徳の時間の考え方

### 1 道徳の時間の指導は心を育む時間になっている？

- ・教科の指導は知らないことを知る喜び（知の獲得）、道徳の時間は知っていることをさらに深く考える喜び（価値の自覚）によって成り立つ。年間35時間の指導はそうになっている？
- ・行動のパターンを教え込むこと、個別の行為を教えることは生活指導。集団の関わり方や在り方について話し合い、その結果お互いの望ましい態度や行動の原則を決めることは特別活動。情によって思いを寄せ（心情）、自分の意志によって判断し（判断力）、よりよく生きようとする（意欲・態度）心を育てることが道徳。

### 2 道徳の時間の目標をおさえている？（現行中学校学習指導要領解説より）

・「道徳の時間においては…補充、深化、統合し、道徳的価値及び自己の生き方についての考えを深め、（道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、） 道徳的実践力を育成するものとする。」

道徳の時間の目標

授業のやり方、方法

「生き方についての考え、自覚深め」る指導方法を工夫して、「道徳的実践力」を育成する。

### 3 道徳の時間に生かす教材とは…

道徳の時間に活用する資料は、人生にそう幾度も経験できない心に残る出来事が描かれた資料、新たな知見や知識を伝えるような資料、相反する道徳的価値がぶつかる（モラルジレンマ）資料など多様である。ただし、それらの資料には、道徳的価値の自覚を深めるために次の点が具備されている必要がある。

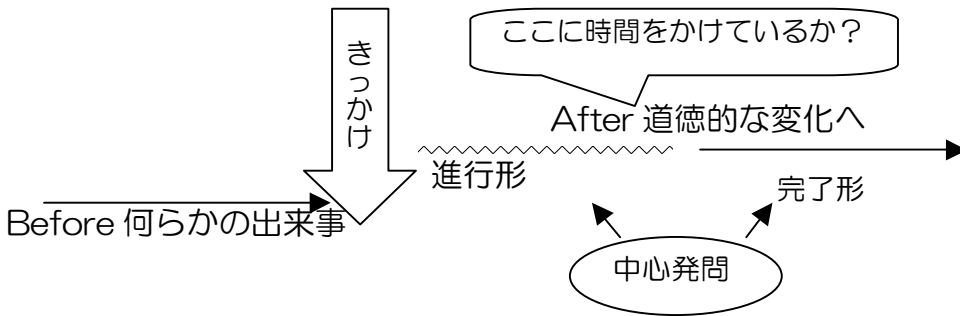
- ア 生徒の感性に訴え、感動を覚えるようなもの
- イ 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの
- ウ 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えることができるもの
- エ 体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの
- オ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの
- カ 多様で発展的な学習活動を可能にするもの

具体的には、「先人の伝記」、「自然を題材としたもの」、「文化や伝統を題材としたもの」、「スポーツを題材としたもの」などの読み物資料、他に名作、古典、随想、民話、詩歌、論説、

映像ソフト、メディアやネットの記事・情報、実話、写真、劇、漫画など多様である。

#### 4 授業の中で、生き方についての自覚を深めるために読み物資料を活用するためには？

<道徳の時間に生き方を考える資料として、有効な資料の構図>



☆「誰が変化したのか」、「きっかけは何か」、「何で変化したのか」 ←ここを考える！

資料の中で、道徳的な変化に向かう主人公が、どんな思いで、また何を考えてそうしたのかをじっくり考える。主人公の思いや考えに迫ることで、人としてよりよい在り方、生き方を見つめることができる。

道徳の資料を読むとき、読み物資料の文章の構成やつくりを読むのではなく、「道徳上の問題」を取り上げた読み方をすることが大切である。

### ■「特別の教科 道徳」(道徳科)に向けて

#### 1 そのねらいは…

- 「いじめの問題」への対応の充実、発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善する。
- 「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」などの内容項目を小学校に追加する。(中学校ではこれまでも扱っていた内容)
- 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れて指導方法を工夫する。
- 評価は、数値による評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握する。

#### 2 「特別の教科 道徳」の目標は…

「(人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に) よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

#### 3 「特別の教科 道徳」の内容は… 4つの視点、22の内容項目が示されています。

※小学校 1,2年生(19)、3,4年生(20)、5,6年生(22)の内容項目があります。

##### ★「A 主として自分自身に関すること」

→自分の在り方を見つめ、望ましい自己の形成を図るために考えたいこと。

- (1) 自主、自律、自由と責任 (2) 節度、節制 (3) 向上心、個性の伸長 (4) 希望と勇気、克己と強い意志 (5) 真理の探究、創造

##### ★「B 主として人との関わりに関すること」

→自分を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図るために考えたいこと。

- (6) 思いやり、感謝 (7) 礼儀 (8) 友情、信頼 (9) 相互理解、寛容

##### ★「C 主として集団や社会との関わりに関すること」

→自分を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合い、日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者となるために考えたいこと。

- (10) 遵法精神、公德心 (11) 公正、公平、社会正義 (12) 社会参画、公共の精神 (13) 勤労  
 (14) 家族愛、家族生活の充実 (15) よりよい学校生活、集団生活の充実 (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 (17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度  
 (18) 国際理解、国際貢献

★「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」

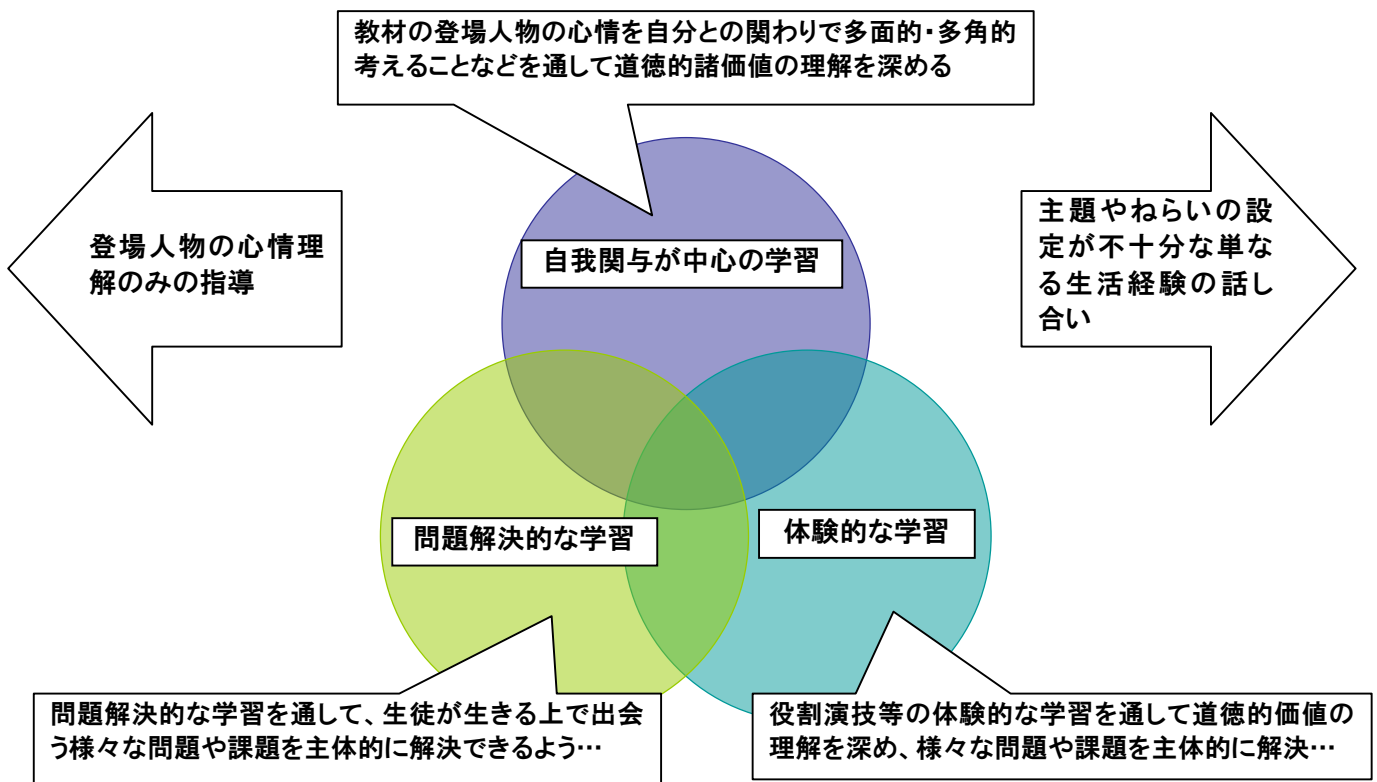
→自分を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としてよりよい生き方について自覚を深めるために考えたいこと。

- (19) 生命の尊さ (20) 自然愛護 (21) 感動、畏敬の念 (22) よりよく生きる喜び

4 道徳科に生かす指導方法の工夫 -問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法-

- (1) 教材の提示の方法の工夫(教師による範読、音声や音楽、ビデオ等の映像)  
 (2) 発問の工夫(授業のねらいに深くかかわる中心発問、物事を多面的・多角的に考える発問)  
 (3) 話し合いの工夫(討論、ペアでの対話、グループによる話し合いで考えを深めたり、明確にしたりする)  
 (4) 書く活動の工夫(ワークシート、ノートの継続的な活用)  
 (5) 動作化、役割演技等の生徒の表現活動の工夫(生徒の感性や臨場感を高め、ねらいに迫る)  
 (6) 板書を生かす工夫(思考の流れを整理する。違いや多様性の比較、対象など構造的に示す)  
 (7) 説話の工夫(生徒の思考を一層深めたり、整理する。説諭や叱責、決意の強制にならないこと。)

5 道徳科における質の高い多様な指導方法について



読み物資料を活用したこれまでの道徳の時間の指導について、登場人物の心情理解のみの指導や主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合いを改善し、より質の高い多様な指導方法が求められている。

これまでの道徳の時間の指導が全て否定されたのではなく、ねらいとする道徳的価値の理解に必要であれば、多様な指導方法から授業づくりを改善する。上記の3つの指導方法は、それぞれが個別にあるのではなく、これも必要に応じて、交わる取組も考えられる。指導方法は、生徒にとって、よりよい生き方について、より広く、より深く考える授業をつくるための工夫されるべきである。

## 6「特別の教科 道徳」の評価は…

### 【道徳科における評価の基本的な考え方】

- (1) 数値による評価ではなく、記述式であること。
- (2) 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- (3) 他の生徒との比較による相対評価ではなく、生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止め、それを励ます個人内評価として行うこと。
- (4) 学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- (5) 道徳科の学習活動における生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること。

### 【道徳科の評価の方向性】

- 指導要録においては当面、一人一人の生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、
  - ・他者の考えや議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、  
(自分と違う意見を理解しようとしている、複数の道徳的価値の対立する場면을多面的・多角的に考えようとしている等)
  - ・多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、  
(読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている。道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等)といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する、といった改善を図ることが妥当である。
- 評価に当たっては、生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり、1回1回の授業の中で全ての生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、年間35時間の授業という長い時間で見取ったりするなどの工夫が必要である。
- 道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要である。

### 【発達障害のある生徒への必要な配慮】

- 生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要

文部科学省「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」報告(平成28年7月22日)より

教科化に向けた道徳の時間の改善は、「考え、議論する道徳」と示された。しかし、「考え、議論する」指導方法にあまりとらわれすぎず、道徳の本来在るべき授業を追求していきたい。

たとえば、「いじめ」の問題についてである。これは人間としての生き方の問題である。その問題に対して、道徳の時間で何をすべきなのかを考える。いじめ問題そのものを取り上げた生々しい教材で向かうのも一つの方法であるが、配慮が足りなければ失敗する授業になりやすい。

その学級の生徒たちにとって、その授業がいい気持ちになれない場合がある。また、そこに広がっている生徒たちの人間関係によっては、発言もしにくく、語り合うことが困難な場合がある。

「いじめ」の問題を道徳の時間に考える場合、目の前の生徒たちが、「いじめ」に対して、道徳的に何が欠けているのかを考える。「生命尊重」について希薄なのか、真の「友情」について深まっていないのか、「公正、公平、社会正義」について考えるべきなのか。一見遠回りのようではあるが、その積み重ねがいじめに立ち向かう心を育てる。

道徳上の問題として、「いじめ」を捉えるということは、私たちが、私たちの心の中にどんな問題があるのかを見つめることである。つまり、問題解決的な学習でいう「問題解決」とは問題がなくなることではない。問題は解決より、発見すべきものである。なぜなら、道徳においての問題は一生なくなるしない。「Cogito ergo sum」(「我思う、故に我在り」)デカルトの言葉である。本当に自分のこととして大事だと思うこと。気付くこと。子どもが育つような道徳の授業はそこから創造される。